



スクリプトライブラリのドキュメント

Virtual Desktop Service

NetApp
January 19, 2022

This PDF was generated from <https://docs.netapp.com/ja-jp/virtual-desktop-service/scriptlibrary.AdobeReader.html> on January 19, 2022. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

| | |
|--|----|
| スクリプトライブラリのドキュメント | 1 |
| スクリプト化されたイベントドキュメント - Adobe Reader DC | 1 |
| スクリプト化されたイベントドキュメント - AMD Radeon Instinct ドライバ | 2 |
| スクリプト化されたイベントドキュメント - Ezeep Print App | 4 |
| スクリプト化されたイベントドキュメント - Google Chrome | 6 |
| スクリプト化されたイベントドキュメント - Microsoft Edge Chromium | 7 |
| スクリプト化されたイベントドキュメント - Microsoft Office 365 | 9 |
| スクリプト化されたイベントドキュメント - Microsoft OneDrive | 11 |
| スクリプト化されたイベントドキュメント - Microsoft Teams | 12 |
| スクリプト化されたイベントドキュメント - AVD の Microsoft チーム | 14 |
| スクリプト化されたイベントドキュメント - Nvidia Cuda ドライバ | 15 |
| スクリプト化されたイベントドキュメント - Nvidia グリッドドライバ | 17 |
| スクリプト化されたイベントドキュメント - AVD スクリーンキャプチャ保護 | 18 |
| スクリプト化されたイベントドキュメント - Zoom VDI AVD | 20 |

スクリプトライブラリのドキュメント

スクリプト化されたイベントドキュメント - Adobe Reader DC

グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[クローン] ボタンは [スクリプトイベント] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | *scriptlibrary.overview-2ccb2.png*

Adobe Reader DC の概要

このスクリプトパッケージは、chocolatey パッケージマネージャを使用して、*Adobe Reader DC* をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは、以下のように入力されます。ショートカットは、「\\shortcuts\Acrobat Reader DC.lnk」です

[アクティビティの追加] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallAdobeReader] | *scriptlibrary.activity.InstallAdobeReader.png*

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには 'そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の `_Workspace > Applications_page` から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install(または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用で

きます_ サーバの作成 _ を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます_ サーバの作成 _ およびその他のトリガが文書化されており ' 調査できます " [こちらをご覧ください](#) "。



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "セクション。" RDS 記事のアプリエンタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [Activities_Click (_ アクティビティ _ を追加 _)] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
 - * 名前： * このアクティビティに名前を付けます
 - * 概要： * オプションで概要を入力します
 - * 展開 * ドロップダウンから希望の展開を選択します
 - * スクリプト： * ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
 - * 引数： * は空白のままにします
 - * 有効チェックボックス : * チェックボックス
 - * イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
 - * アプリケーション： * ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
 - * ショートカットパス： * このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

スクリプト化されたイベントドキュメント - AMD Radeon Instinct ドライバ

グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を

使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[クローン] ボタンは [スクリプトイベント] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | *scriptlibrary.overview-2ccb2.png*

AMD Radeon Instinct ドライバの概要

このスクリプトパッケージは、chocolatey パッケージマネージャを使用して、*AMD Radeon Instinct Drivers* をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

[アクティビティの追加] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallAMDRadeonInstinctDrivers] |

手動アクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには 'そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティは 'VDS 管理者が手動でスクリプトをトリガしたときに実行されます

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など 'その他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこれは 'Manual_event タイプの代わりに使用できますCreate Server を使用すると 'VDS で新しく作成したすべての VM に対してこのスクリプトが実行されます_ サーバの作成 _ およびその他のトリガが文書化されており '調査できます "[こちらをご覧ください](#)".

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [_Activities_Click (_ アクティビティ _ を追加 _)] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
 - * 名前： * このアクティビティに名前を付けます
 - * 概要： * オプションで概要を入力します
 - * 展開 * ドロップダウンから希望の展開を選択します
 - * スクリプト： * ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
 - * 引数： * は空白のままにします
 - * 有効チェックボックス : * チェックボックス
 - * イベントの種類：ドロップダウンから「手動」を選択します
 - * ターゲット・タイプ：「サーバ」ラジオ・ボタンを選択します
 - * 管理対象サーバ：このアンインストールを受け取る VM ごとにチェックボックスをオンにします

スクリプト化されたイベントドキュメント - Ezeep Print App

グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[クローン] ボタンは「[スクリプトイベント] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

Ezeep Print App の概要

このスクリプトパッケージは、chocolatey パッケージマネージャを使用して、*Ezeep Print App* をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは以下のようになります。ショートカットは「\\shortcuts\Printer Self Service.Ink`」です

[アクティビティの追加] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallEzeepPrintApp] | [scriptlibrary.activity.InstallEzeepPrintApp.png](#)

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには 'そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の `_Workspace > Applications_page` から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install(または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用できます_ サーバの作成 _ を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます_ サーバの作成 _ およびその他のトリガが文書化されており '調査できます "[こちらをご覧ください](#)"。



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "[セクション](#)。" RDS 記事のアプリエントタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [Activities_Click (_ アクティビティ _ を追加 _)] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
 - * 名前： * このアクティビティに名前を付けます
 - * 概要： * オプションで概要を入力します
 - * 展開 * ドロップダウンから希望の展開を選択します
 - * スクリプト： * ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトで

す。

- * 引数：* は空白のままにします
- * 有効チェックボックス：* チェックボックス
- * イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
- * アプリケーション：* ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
- * ショートカットパス：* このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

スクリプト化されたイベントドキュメント - Google Chrome

グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[クローン] ボタンは [スクリプトイベント] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | *scriptlibrary.overview-2ccb2.png*

Google Chrome の概要

このスクリプトパッケージは、chocolatey パッケージマネージャを使用して、_Google Chrome_ をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは、以下のように入力されます。ショートカットは、「\\shortcuts\Google Chrome.lnk`」です

[アクティビティの追加] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallGoogleChrome] | *scriptlibrary.activity.InstallGoogleChrome.png*

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには 'そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の `_Workspace > Applications_page` から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install(または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用できます_ サーバの作成 _' を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます_ サーバの作成 _ およびその他のトリガが文書化されており '調査できます "[こちらをご覧ください](#)"。



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "[セクション](#)。" RDS 記事のアプリエントタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [`_Activities_Click` (`_ アクティビティ _` を追加)] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
 - * 名前： * このアクティビティに名前を付けます
 - * 概要： * オプションで概要を入力します
 - * 展開 * ドロップダウンから希望の展開を選択します
 - * スクリプト： * ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
 - * 引数： * は空白のままにします
 - * 有効チェックボックス : * チェックボックス
 - * イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
 - * アプリケーション： * ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
 - * ショートカットパス： * このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

スクリプト化されたイベントドキュメント - Microsoft Edge Chromium

グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方

のアクションについて説明します。

グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[クローン] ボタンは '[スクリプトイベント] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

Microsoft Edge Chromium の概要

このスクリプトパッケージでは、chocolatey パッケージマネージャを使用して Microsoft Edge Chromium_ をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

デフォルトのショートカットパス

デフォルトのショートカットパスは以下のように入力されます。このアプリケーションのショートカットは、「\\shortcuts\Microsoft Edge.lnk」です

[アクティビティの追加] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallMicrosoftEdgeChromium] | [scriptlibrary.activity.InstallMicrosoftEdgeChromium.png](#)

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには 'そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の _Workspace > Applications_page から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install(または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用できます_ サーバの作成 _ を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます_ サーバの作成 _ およびその他のトリガが文書化されており '調査できます "[こちらをご覧ください](#)"。



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "[セキュリティ](#)。" RDS 記事のアプリエントタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [_Activities_Click (_ アクティビティ _ を追加 _)] をクリックします

3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。

- * 名前： * このアクティビティに名前を付けます
- * 概要： * オプションで概要を入力します
- * 展開 * ドロップダウンから希望の展開を選択します
- * スクリプト： * ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
- * 引数： * は空白のままにします
- * 有効チェックボックス : * チェックボックス
- * イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
- * アプリケーション： * ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
- * ショートカットパス： * このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

スクリプト化されたイベントドキュメント - Microsoft Office 365

グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[クローン] ボタンは [スクリプトイベント] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

Microsoft Office 365 の概要

このスクリプトパッケージは、chocolatey パッケージマネージャを使用して Microsoft Office _ をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。



この Microsoft Office 365 インストールスクリプトには、Microsoft チームや Microsoft One Drive は含まれていません。これらはスタンドアロンの自動スクリプトとして含まれており、一部の環境ではこれらのアプリケーションが不要なため、柔軟性が向上します。この配置は、コピーおよび編集して含めることができます（または、他の配置を変更することもできます）["Office 展開ツール" 設定](#)） VDS からスクリプトをクローニングし、InstallMicrosoftOffice365.ps1 を編集して、XML 設定ファイルに異なる値を入力する。

デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは、以下のように入力されます。ショートカットは「\\folders\Microsoft Office」です

【アクティビティの追加】ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallMicrosoftOffice365] | [scriptlibrary.activity.InstallMicrosoftOffice365.png](#)

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには、そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の `_Workspace > Applications_page` から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install(または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用できます_ サーバの作成 _' を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます_ サーバの作成 _' およびその他のトリガが文書化されており '調査できます "[こちらをご覧ください](#)"



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "[セクション](#)。" RDS 記事のアプリエンタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [Activities_Click (_ アクティビティ _ を追加 _)] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
 - * 名前： * このアクティビティに名前を付けます
 - * 概要： * オプションで概要を入力します
 - * 展開 * ドロップダウンから希望の展開を選択します
 - * スクリプト： * ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
 - * 引数： * は空白のままにします
 - * 有効チェックボックス : * チェックボックス
 - * イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します

- * アプリケーション： * ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
- * ショートカットパス： * このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

スクリプト化されたイベントドキュメント - Microsoft OneDrive

グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[クローン] ボタンは [スクリプトイベント] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

Microsoft OneDrive の概要

このスクリプトパッケージは、chocolatey パッケージマネージャを使用して Microsoft OneDrive をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは、以下のように入力されます。ショートカットは、「\\shortcuts\OneDrive .lnk`」です

[アクティビティの追加] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallMicrosoftOneDrive] | [scriptlibrary.activity.InstallMicrosoftOneDrive.png](#)

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには ' そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の _Workspace > Applications_page から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install(または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用できます_ サーバの作成 _ を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます_ サーバの作成 _ およびその他のトリガが文書化されており '調査できます "[こちらをご覧ください](#)".



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "[セクション](#)." RDS 記事のアプリエントタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [_Activities_Click (_ アクティビティ _ を追加 _)] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
 - * 名前： * このアクティビティに名前を付けます
 - * 概要： * オプションで概要を入力します
 - * 展開 * ドロップダウンから希望の展開を選択します
 - * スクリプト： * ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
 - * 引数： * は空白のままにします
 - * 有効チェックボックス : * チェックボックス
 - * イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
 - * アプリケーション： * ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
 - * ショートカットパス： * このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

スクリプト化されたイベントドキュメント - Microsoft Teams

グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を

使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[クローン] ボタンは [スクリプトイベント] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

Microsoft チームの概要

このスクリプトパッケージでは、chocolatey パッケージマネージャを使用して Microsoft Teams_ をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。



この Microsoft チームインストールは、RDS 環境への導入用に特別に構成されています。"別の Microsoft Teams スクリプト" AVD 展開用に提供されています。

デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは ' 以下のとおりですショートカットは '\\shortcut\Microsoft Teams\lnk' です

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには ' そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（ VDS の _Workspace > Applications_page から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など ' 他多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install(または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用できます_ サーバの作成 _ を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます_ サーバの作成 _ およびその他のトリガが文書化されており ' 調査できます "こちらをご覧ください"。



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "セクション。" RDS 記事のアプリエントタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [_Activities_Click (_ アクティビティ _ を追加 _)] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
 - * 名前： * このアクティビティに名前を付けます
 - * 概要： * オプションで概要を入力します
 - * 展開 * ドロップダウンから希望の展開を選択します
 - * スクリプト： * ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。

- * 引数：* は空白のままにします
- * 有効チェックボックス：* チェックボックス
- * イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
- * アプリケーション：* ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
- * ショートカットパス：* このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

スクリプト化されたイベントドキュメント - AVD の Microsoft チーム

グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[クローン] ボタンは [スクリプトイベント] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

Microsoft Teams for AVD の概要

このスクリプトパッケージでは、chocolatey パッケージマネージャを使用して、Microsoft チーム AVD_Ad をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。



この Microsoft チームは、AVD 環境への導入用に特別に構成されており、Azure の AVD に固有のカスタマイズとコンポーネントが含まれています。"別の Microsoft Teams スクリプト" RDS 展開用に用意されています。

デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは以下のとおりですショートカットは '\\shortcut\Microsoft Teams AVD.lnk' です

【アクティビティの追加】ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallMicrosoftTeamsAVD] | [scriptlibrary.activity.InstallMicrosoftTeamsAVD.png](#)

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには、そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要があります。この例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の `_Workspace > Applications_page` から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他多くのタイプのアクティビティトリガが用意されています。このトリガは 'Application Install(または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用できます。_サーバの作成_ を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます。_サーバの作成_ およびその他のトリガが文書化されており、調査できます。 [こちらをご覧ください](#)。



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要があります。これ ["セクション"](#) RDS 記事のアプリケーションタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [Activities_Click (_ アクティビティ _ を追加 _)] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
 - * 名前： * このアクティビティに名前を付けます
 - * 概要： * オプションで概要を入力します
 - * 展開 * ドロップダウンから希望の展開を選択します
 - * スクリプト： * ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
 - * 引数： * は空白のままにします
 - * 有効チェックボックス : * チェックボックス
 - * イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
 - * アプリケーション： * ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
 - * ショートカットパス： * このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

スクリプト化されたイベントドキュメント - Nvidia Cuda ドライバ

グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは

VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[クローン] ボタンは [スクリプトイベント] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

NVIDIA Cuda ドライバの概要

このスクリプトパッケージは、chocolatey パッケージマネージャを使用して、Nvidia Cuda Drivers_ をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

[アクティビティの追加] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallNvidiaCudaDrivers] | [scriptlibrary.activity.InstallNvidiaCudaDrivers.png](#)

手動アクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには ' そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティは 'VDS 管理者が手動でスクリプトをトリガしたときに実行されます

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など ' その他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこれは 'Manual_event タイプの代わりに使用できますCreate Server を使用すると 'VDS で新しく作成したすべての VM に対してこのスクリプトが実行されます_ サーバの作成 _ およびその他のトリガが文書化されており ' 調査できます "[こちらをご覧ください](#)".

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [_Activities_Click (_ アクティビティ _ を追加 _)] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
 - * 名前： * このアクティビティに名前を付けます
 - * 概要： * オプションで概要を入力します
 - * 展開 * ドロップダウンから希望の展開を選択します
 - * スクリプト： * ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトで

す。

- * 引数: * は空白のままにします
- * 有効チェックボックス: * チェックボックス
- * イベントの種類: ドロップダウンから「手動」を選択します
- * ターゲット・タイプ: 「サーバ」ラジオ・ボタンを選択します
- * 管理対象サーバ: このアンインストールを受け取る VM ごとにチェックボックスをオンにします

スクリプト化されたイベントドキュメント - Nvidia グリッドドライバ

グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムのスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[クローン] ボタンは [スクリプトイベント] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

NVIDIA GRID ドライバの概要

このスクリプトパッケージでは、chocolatey パッケージマネージャを使用して *Nvidia Grid Drivers* をインストール / アンインストールします (<https://chocolatey.org/>) をクリックして、を展開します。chocolatey は VM の作成時に VDS によって導入されますが、このスクリプトでは chocolatey が存在しない場合はその前提条件として確認およびインストールされます。

[アクティビティの追加] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallNvidiaGridDrivers] | [scriptlibrary.activity.InstallNvidiaGridDrivers.png](#)

手動アクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには ' そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティは 'VDS 管理者が手動でスクリプトをトリガしたときに実行されます

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' その他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこれは 'Manual_event' タイプの代わりに使用できます Create Server を使用すると 'VDS で新しく作成したすべての VM に対してこのスクリプトが実行されます' サーバの作成 およびその他のトリガが文書化されており 調査できます ["こちらをご覧ください"](#)。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [Activities_Click (_ アクティビティ _ を追加 _)] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
 - * 名前： * このアクティビティに名前を付けます
 - * 概要： * オプションで概要を入力します
 - * 展開 * ドロップダウンから希望の展開を選択します
 - * スクリプト： * ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
 - * 引数： * は空白のままにします
 - * 有効チェックボックス : * チェックボックス
 - * イベントの種類：ドロップダウンから「手動」を選択します
 - * ターゲット・タイプ：「サーバ」ラジオ・ボタンを選択します
 - * 管理対象サーバ：このアンインストールを受け取る VM ごとにチェックボックスをオンにします

スクリプト化されたイベントドキュメント - **AVD** スクリーンキャプチャ保護

グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[クローン] ボタンは [スクリプトイベント] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

AVD 画面キャプチャ保護の概要

このスクリプトパッケージは、PowerShell で（関連する）コマンドを実行することにより、ネイティブの AVD feature_screen capture protection_ を有効または無効にします。

— 有効にします

「HKLM\SOFTWARE\Policies\Microsoft\Windows NT\Terminal Services」 /v fEnableScreenCaptureProtection/t REG_DRE/d 1 を追加します

- 無効にします

「HKLM\SOFTWARE\Policies\Microsoft\Windows NT\Terminal Services」 /v fEnableScreenCaptureProtection/f を削除します

この AVD 機能に関する Microsoft のマニュアルは、次の URL から入手できます。<https://docs.microsoft.com/en-us/azure/virtual-desktop/security-guide#session-host-security-best-practices>

【アクティビティの追加】ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.AVDScreenCaptureProtection 216a6] | *scriptlibrary.AVDScreenCaptureProtection-216a6.png*

手動アクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには、そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要があります。この例のアクティビティは、VDS 管理者が手動でスクリプトをトリガしたときに実行されます。

VDS スクリプト化されたイベントには、'Create Server など'、その他の多くのタイプのアクティビティトリガが用意されています。これは、'Manual_event' タイプの代わりに使用できます。Create Server を使用すると、VDS で新しく作成したすべての VM に対してこのスクリプトが実行されます。サーバの作成、およびその他のトリガが文書化されており、調査できます。[こちらをご覧ください](#)。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [_Activities_Click (_ アクティビティ _ を追加 _)] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
 - * 名前： * このアクティビティに名前を付けます
 - * 概要： * オプションで概要を入力します
 - * 展開 * ドロップダウンから希望の展開を選択します
 - * スクリプト： * ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
 - * 引数： * は空白のままにします
 - * 有効チェックボックス : * チェックボックス
 - * イベントの種類：ドロップダウンから「手動」を選択します

- * ターゲット・タイプ：「サーバ」ラジオ・ボタンを選択します
- * 管理対象サーバ：このアンインストールを受け取る VM ごとにチェックボックスをオンにします

スクリプト化されたイベントドキュメント - Zoom VDI AVD

グローバルスクリプトの概要

NetApp VDS には、定義済みのスクリプト化イベントのライブラリが含まれています。これらのイベントは VDS 環境で直接使用したり、重複してカスタムスクリプト化イベントのビルディングブロックとして使用したりできます。

このアプリケーションの場合、この記事では、インストール / 有効化およびアンインストール / 無効化の両方のアクションについて説明します。

グローバルスクリプトの使用

このような組み込みのスクリプト化されたイベントは事前に入力されており、「グローバル」フィルタチェックボックスをオンにすると表示されます。

このようなグローバルスクリプトイベントは読み取り専用ですそのまま使用することも、「クローン」機能を使用して編集や使用のためにお客様のコピーを作成することもできます。

[クローン] ボタンは [スクリプトイベント] ページのアクションメニューにあります

[scriptlibrary.overview 2ccb2] | [scriptlibrary.overview-2ccb2.png](#)

VDI/AVD の概要を拡大します

このスクリプトパッケージは、PowerShell を使用して導入を実行するために、_Zoom VDI-AVD_A をインストールまたはアンインストールします。



VDI/AVD 環境でオーディオリダイレクトも有効になっていると、ズームパフォーマンスが向上します。

デフォルトのショートカットパス

このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスは以下のとおりですショートカットは '\\shortcuts\Zoom VDI.lnk' です

[アクティビティの追加] ダイアログウィンドウのスクリーンショット

[scriptlibrary.activity.InstallZoomVDI AVD] | [scriptlibrary.activity.InstallZoomVDI-AVD.png](#)

アプリケーションのインストール / アンインストールアクティビティを追加します

リポジトリ内のスクリプトが何らかのアクションを実行するには 'そのスクリプトを選択したトリガに関連付けるアクティビティを作成する必要がありますこの例のアクティビティでは、アプリケーションがワークスペースに追加された場合、またはワークスペースから削除された場合（VDS の _Workspace > Applications_page から）、このアプリケーションをインストール / アンインストールします。

VDS スクリプト化されたイベントには 'Create Server など' 他多くのタイプのアクティビティトリガが用意されていますこのトリガは 'Application Install(または Application Uninstall) イベントタイプの代わりに使用できます_ サーバの作成 _ を使用すると 'VDS で新たに作成したすべての VM に対してこのアプリケーションのインストールが実行されます_ サーバの作成 _ およびその他のトリガが文書化されており '調査できます "[こちらをご覧ください](#)".



このアプリケーションは 'VDS アプリケーションライブラリに存在する必要がありますこれ "[セクション](#)." RDS 記事のアプリエンタイトルメントでは、ライブラリにアプリを追加する方法について説明しています。

アクティビティを作成し、このスクリプトをアクションにリンクするには：

1. VDS のスクリプトイベントセクションに移動します
2. [Activities_Click (_ アクティビティ _ を追加 _)] をクリックします
3. 開いたダイアログウィンドウで、次の情報を入力します。
 - * 名前： * このアクティビティに名前を付けます
 - * 概要： * オプションで概要を入力します
 - * 展開 * ドロップダウンから希望の展開を選択します
 - * スクリプト： * ドロップダウンからインストール（またはアンインストール）スクリプトを選択します。これは、クローンを作成してカスタマイズしたグローバルスクリプトまたは顧客スクリプトです。
 - * 引数： * は空白のままにします
 - * 有効チェックボックス : * チェックボックス
 - * イベントの種類：ドロップダウンから「Application Install」（アプリケーションのインストール）または「Application Uninstall」（アプリケーションのアンインストール）を選択します
 - * アプリケーション： * ドロップダウンからこのアプリケーションを選択します
 - * ショートカットパス： * このアプリケーションのデフォルトのショートカットパスを入力します（上記を参照）。

Copyright Information

Copyright © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. Printed in the U.S. No part of this document covered by copyright may be reproduced in any form or by any means-graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or storage in an electronic retrieval system- without prior written permission of the copyright owner.

Software derived from copyrighted NetApp material is subject to the following license and disclaimer:

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY NETAPP "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL NETAPP BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

NetApp reserves the right to change any products described herein at any time, and without notice. NetApp assumes no responsibility or liability arising from the use of products described herein, except as expressly agreed to in writing by NetApp. The use or purchase of this product does not convey a license under any patent rights, trademark rights, or any other intellectual property rights of NetApp.

The product described in this manual may be protected by one or more U.S. patents, foreign patents, or pending applications.

RESTRICTED RIGHTS LEGEND: Use, duplication, or disclosure by the government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.277-7103 (October 1988) and FAR 52-227-19 (June 1987).

Trademark Information

NETAPP, the NETAPP logo, and the marks listed at <http://www.netapp.com/TM> are trademarks of NetApp, Inc. Other company and product names may be trademarks of their respective owners.